



企業と顧客のやりとりを
ドコモのデータで円滑に

本人確認アシストAPI

お問い合わせ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター

電話番号 0120-808-539

受付時間 午前9時～午後6時(土・日・祝日、年末年始を除く)

オンライン上での 本人確認の重要性が 高まっています

本人確認＝非対面の存在の身元確認・当人認証

オンライン以前のサービスは、原則的に対面でのサービス提供であり、相手が「見える」存在でした。しかし、インターネットが定着した現代では、たとえばインターネットバンキングやスマホ決済アプリなど、相手が「見えない」存在であっても、その人が実在する本人であることを前提としたオンラインサービスが数多く提供されています。サービスを提供する際にはユーザーの確認が必須であり、さまざまな場面で、「身元確認」と「当人認証」が必要になります。運転免許証をはじめとする公的な本人確認書類などを用いて、手続きをしている人が実在する本人であることを確認する身元確認。IDやパスワード等の本人でしか知り得ない情報によって、本人であることを確認する当人認証。この二つを総じて「本人確認」と呼び、さまざまな項目からユーザーの確認を行うのです。また、関連する概念として発行したアカウントを他のサービスに連携する際に利用される「認証連携」があります。この3つの要素をドコモは「本人確認アシストAPI」で提供しています。

オンライン上の本人確認の3要素

身元確認

Identity Proofing

名前、住所、生年月日、性別などの、その人の身元を確認する情報

公的個人認証
(マイナンバーカード)

運転免許証

⋮

当人認証

Authentication

ログイン時などに、当人を確認する情報

パスワード

生体認証
(顔／声紋／指紋／静脈など)

⋮

認証連携

Federation

発行したアカウントをさまざまなサービスで連携する仕組みや枠組み

OpenID Connect

その他

⋮

本人確認の課題

ユーザーの声

身元確認

- 入力項目が多い
- 本人確認書類のアップロードが面倒

当人認証

- 手間をかけたくない



企業の声

身元確認

- 人件費がかかる
- 運用コストがかさむ

当人認証

- 確認項目が多いとサービス利用の妨げになる
- セキュリティを強化すると運用コストがかさむ



本人確認の不足による被害も発生しています

被害事例 スマートフォンアプリの不正利用

被害内容

被害にあったのはIDとパスワードのみでログインが可能なスマートフォンアプリ。他サービスとID/パスワードを使い回していたユーザーのID/パスワードが漏洩し、不正利用が発生。大きな損失につながった。

原因

ID/パスワードのみでログインが可能だったために、契約者以外によるなりすましが横行。ID/パスワードのみの単一要素による本人確認はセキュリティ不足だった。



本人確認アシストAPIなら
本人確認のコストを削減しながら
セキュリティを高めることができます！

本人確認の重要性を動画でもご覧ください

本人確認アシストAPI

検索

本人確認アシストAPIとは？

2017年6月提供開始

本人確認アシストAPIとは、ドコモの携帯電話申し込み時に取得したお客さま情報を活用して、企業の本人確認を支援する有償のサービスです。



本人確認アシストAPIで利用できる情報

照会値	提供者情報	詳細
契約者情報	氏名	姓、名、姓(カナ)、名(カナ)
	住所	住所(すべて)、住所(大字通称・字丁目・小字・番地・枝番・小枝番・方書)、住所(市区町村、都道府県、郵便番号)
	携帯電話番号	携帯電話番号
	生年月日	お客さまの生年月日
	連絡先電話番号	契約者住所などの連絡先電話番号(市外局番、市内局番、加入者番号)
本人確認書類情報	証明書区分	回線契約時にお客さまからご提示いただいた本人確認書類の区分
	証明書番号	回線契約時にお客さまからご提示いただいた本人確認書類の番号
	手続き日	お客さまが回線契約をした手続き日
利用者情報	氏名	姓、名、姓(カナ)、名(カナ)
	生年月日	回線を利用している方の生年月日
その他	ユーザ識別子	回線契約情報に紐づくユーザーを識別するための値

本人確認アシストAPIのサービス紹介動画をご覧ください

本人確認アシストAPI

検索

本人確認アシストAPIの強み

ドコモのお客さま情報を活用

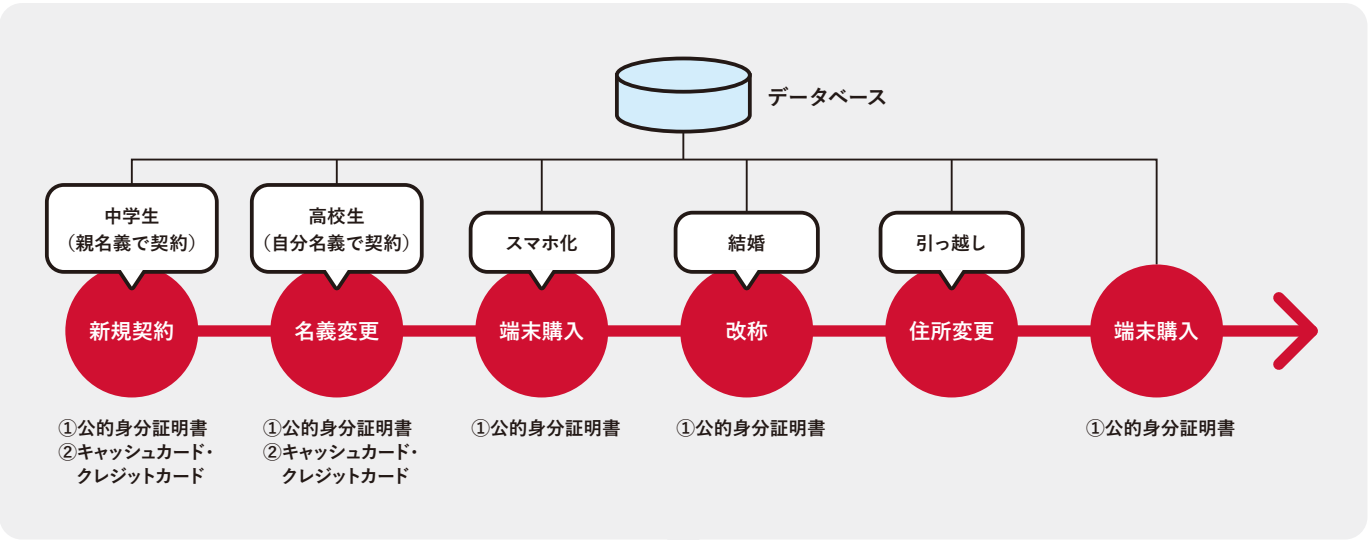
日本屈指の契約者数

本人確認アシストAPIではドコモが保有する約6,000万の本人確認済みお客さま情報を活用できます(2020.3月現在)。

ドコモの保有するお客さま情報の鮮度

ドコモは新規契約以降も定期的にお客さまと接点を持ち、継続的な本人確認を実施。

日本企業のなかで圧倒的に鮮度の高い情報を保持しています。



毎月の料金請求(複数ヶ月支払いが無い場合は強制解約)

2つの機能タイプで課題を解決

フィルインタイプとマッチングタイプの2機能タイプでさまざまな課題を解決します。

フィルインタイプ

ドコモが本人確認したお客さま情報を活用することで、正確な情報での会員登録を実現します。

- 本人確認書類のアップロードが不要になりお客さまの負担軽減
- 判定ロジックをシステム化することで本人確認が即時完了

マッチングタイプ

ドコモのお客さま情報との照合結果を確認することで、確かな本人確認を可能にします。

- 高いセキュリティ
- お客さまの利便性向上
- 2段階認証の運用コストを削減

フィルインタイプの導入メリット

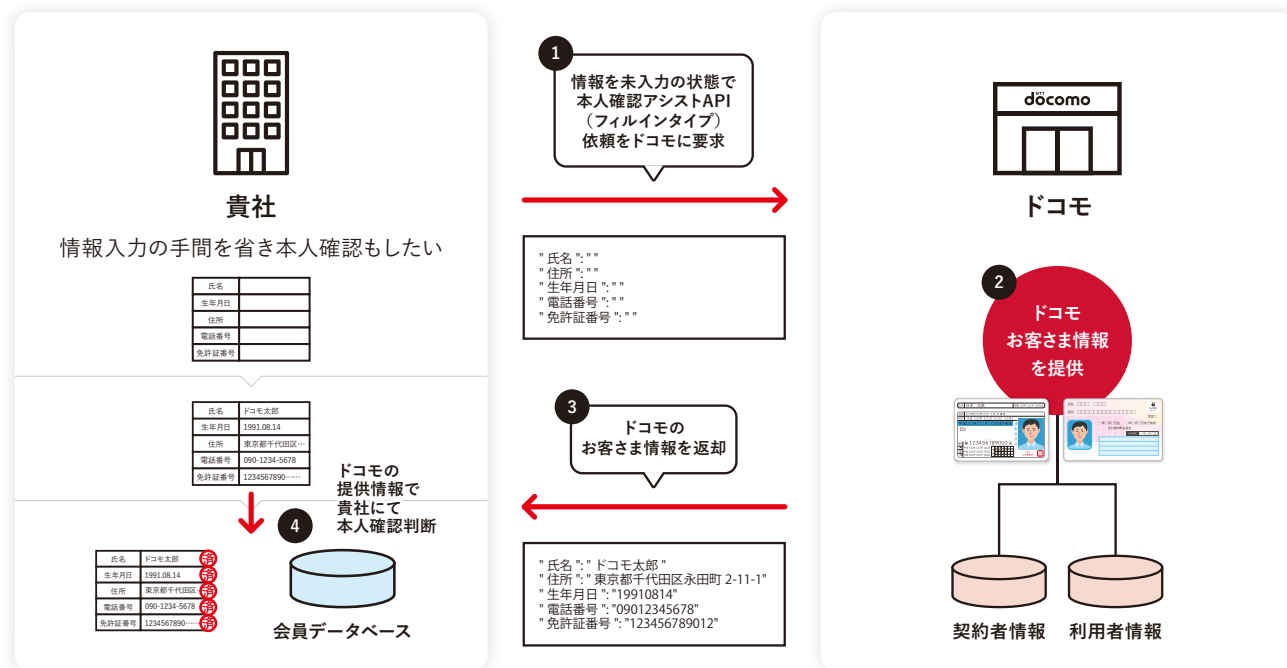
インターネットでの本人確認による途中離脱を改善

オンライン上での本人確認の手続きは、本人確認書類のアップロードや氏名・電話番号・生年月日といった多数の入力項目など、手間がかかります。これによってお客さまが抵抗感を抱き、途中離脱してしまうことが大きな課題となっています。

本人確認アシストAPIのフィルインタイプを導入すれば、ドコモが本人確認した正確な情報によって、上記のお客さまの手間が軽減され、途中離脱を防ぐとともにコストの削減も可能です。

フィルインタイプの機能概要

お客さま同意の上、ドコモが過去に本人確認を実施したお客さまの情報を貴社に提供します（氏名/住所/生年月日/電話番号等）。



フィルインタイプの具体的な画面遷移

貴社サービスを利用されるお客さまに「dアカウント認証」と「個別同意」を実施いただいた後に、お客さま情報が提供されます。



※本人確認アシストAPIは、貴社サービスのご利用者がdアカウント認証をした後に実行可能

※同意は導入企業ごとに実施し、事後の同意解除が可能

CASE 本人確認書類のアップロード

現状



課題

本人確認書類のアップロードや入力項目の多さに抵抗感を抱き、途中離脱する人が多い。また、確認にコストや時間もかかります。

導入後



導入効果 1

本人確認書類のアップロードが不要になりお客さまの負担軽減！

本人確認にかかる各種項目と本人確認書類アップロードが不要となり、お客さまの負担が軽減され、オンライン上の本人確認を効率よく行えるようになります。

導入効果 2

判定ロジックをシステム化することで本人確認が即時完了！

お客さまの入力項目、本人確認書類を目視で確認していた手間が、判定ロジックによって自動化され、確認時間を大幅に減らすとともに、人件費コストの削減が可能です。

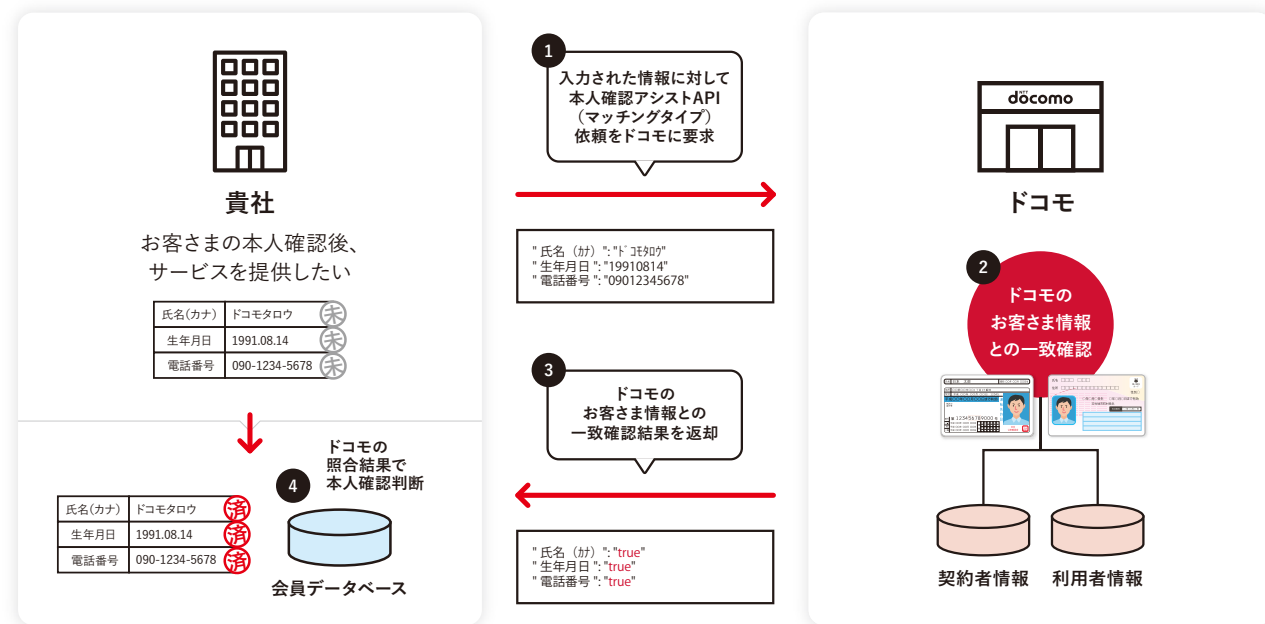
マッチングタイプの導入メリット

高いセキュリティと利便性、コスト削減を両立した認証を実現

オンライン上での本人確認では、なりすましによる不正アクセスなどの危険を防ぐため、高いセキュリティが求められます。しかし、たとえばID/パスワードとワンタイムパスワードの2つを用いるような2段階認証を行うと、利便性が低下し、運用コストも増えてしまいます。本人確認アシストAPIのマッチングタイプを導入すれば、ドコモのお客さま情報との照合によって、これらの課題の解決が可能です。

マッチングタイプの機能概要

お客さま同意の上、貴社のお客さま情報と、ドコモが過去に本人確認を実施したお客さまの情報とをマッチングし、貴社に結果を返却します。



マッチングタイプの具体的な画面遷移

貴社サービスを利用されるお客さまに「dアカウント認証」と「個別同意」を実施いただいた後に、ドコモのお客さま情報とのマッチング結果が提供されます。



※本人確認アシストAPIは、貴社サービスのご利用者様がdアカウント認証をした後に実行可能

※同意は導入企業ごとに実施し、事後の同意解除が可能

CASE ログイン時のセキュリティ強化

現状



課題

2段階認証で高いセキュリティを実現すると、利便性が「低下」し、運用コストが「増加」します。

導入後



導入効果 1

高いセキュリティを実現！

ドコモの確かな情報でお客さま自身が利用者であることを確認し、高いセキュリティを実現できます。

導入効果 2

お客さまの利便性向上！

お客さま自身の携帯電話・スマートフォンを使用するので、利便性が向上します。

導入効果 3

運用コストを削減！

ワンタイムパスワードの発行等が不要になり、2段階認証の運用コストを削減することができます。

4つの代表的なユースケースをご紹介します

ユースケース 1 身分証アップロードの代替

本人確認が必要なサービスのネット会員登録の場合、お客さま情報の入力や身分証のアップロードによる離脱が登録数向上に向けた課題となります。本人確認アシストAPIで簡単に会員登録・本人確認ができます。

対象業種

都市銀行	地方銀行	信用金庫	クレジットカード	生命保険	損害保険
その他金融	公営競技(競馬・競輪・競艇・オートレース)	嗜好品(酒・タバコ)	Maas	シェアリングエコノミー	Sler

現 状

ネットでの本人確認では、お客さまに会員情報を登録いただいた上で、免許証などの身分証の画像のアップロードを依頼。

課 題

お客さま情報の入力の手間による離脱率の悪化

(スマホでの会員情報の入力が面倒なことによる)

身分証アップロードの導線での離脱率の悪化

(お客さまの心理障壁や身分証を写真に撮ることの手間による)

身分証の目視確認に必要な作業時間

(目視確認の間、お客さまをお待たせすることやその稼働時間)

導入効果

企業への提供価値

- 身分証アップロードの導線を省略することができる
- 本人確認済みのお客さま情報をドコモから得られるため、システムにより即時に本人確認ができる

お客さまへの提供価値

- お客さま情報の入力や身分証のアップロードをせずに簡単に会員登録ができる
- 本人確認が必要なサービスでも、即時にサービス利用が可能

ユースケース 3 圧着ハガキの代替

お客さまから会員登録やPW忘れ申告等に基づいてWeb会員ページのログインID／PWを圧着ハガキで郵送通知している場合、お客さまの利用開始までに日数を要する等が課題となります。本人確認アシストAPIを代替手段とすることで、ログインID／PW通知までの時間を短縮することができ、さらに郵送作業コストを削減できます。

対象業種

都市銀行	地方銀行	信用金庫	クレジットカード	生命保険	損害保険
その他金融	公営競技(競馬・競輪・競艇・オートレース)	嗜好品(酒・タバコ)	Maas	シェアリングエコノミー	Sler

現 状

お客さまから会員登録やPW忘れ申告等があった場合、圧着ハガキにてログインIDやPWを郵送通知している。

課 題

圧着ハガキの郵送作業にコストがかかる

(本人確認やハガキ作成等で時間・稼働が発生する)

お客さまのサービス利用開始までに日数を要する

(お客さまのサービス利用に対するモチベーションが低下する)

サービス利用率が悪化する・離脱率が増加する

(お客さまは今すぐサービスを利用・再開したいと思っていたのにできない)

導入効果

企業への提供価値

- 圧着ハガキの郵送作業を省略でき、コスト削減できる
- 本人確認済みのお客さま情報をドコモから得られるため、システムにより即時に本人確認ができる

お客さまへの提供価値

- ログインID/PW発行までの待ち時間がなくなり、すぐにWeb会員サービスを利用または再開できる

ユースケース 2 2段階認証の代替(回線認証限定)

金融機関など厳格な本人確認が必要となる導入企業向けに、従来のワンタイムパスワードトークンやSMSによる2段階認証の代替手段として、本人確認アシストAPI(マッチング機能を想定)を回線認証限定で提供することで、セキュアかつ利便性の高い本人確認機能を提供できます。

対象業種

都市銀行	地方銀行	信用金庫	クレジットカード	生命保険	損害保険
その他金融	公営競技(競馬・競輪・競艇・オートレース)	嗜好品(酒・タバコ)	Maas	シェアリングエコノミー	Sler

現 状

金融機関では2段階認証の実現手段として、ワンタイムパスワードトークンやSMSを使用している。

課 題

ワンタイムパスワードトークン発行・送付のコスト・手間がかかる
(導入企業の観点)

ワンタイムパスワードトークン保持の手間がかかる
(お客さまの観点)

アプリの切替を必要とする煩雑なUI

(アプリを切り替える煩雑さによるお客さま心情的悪化)

SMSによる2段階認証に不安がある

(金融Sler様からセキュリティが弱いとの指摘あり)

導入効果

企業への提供価値

- ワンタイムパスワードトークンに係る運用(発行・送付など)が不要となる(コスト削減)
- SMSによる2段階認証よりセキュアかつ簡単なUIで本人確認をすることができる

お客さまへの提供価値

- ワンタイムパスワードトークンの保持が不要となる(従来は金融機関毎に保持する必要があった)
- セキュアかつ利便性の高い本人確認の利用(SMSを利用できないお客さまも利用可能)

ユースケース 4 スマホ決済アプリの初回登録

スマホ決済アプリの初回登録は多くの場合、クレジットカード・銀行口座と紐づけを行います。これにはなりすましによる不正利用のリスクがあります。本人確認アシストAPIを使うことで、スマートフォンの契約者と違う名義のクレジットカード・銀行口座を登録できなくなり、セキュリティが高まります。

対象業種

都市銀行	地方銀行	信用金庫	クレジットカード	生命保険	損害保険
その他金融	公営競技(競馬・競輪・競艇・オートレース)	嗜好品(酒・タバコ)	Maas	シェアリングエコノミー	Sler

現 状

クレジットカード・銀行口座と紐づけることによって、アプリの登録を行っている。

課 題

なりすましによる不正利用のおそれがある

(クレジットカード・銀行口座情報を知っていれば誰でも登録できてしまう)

お客さま情報の入力の手間による離脱率の悪化

(複数ステップにまたがる煩雑な入力項目の手間による)

導入効果

企業への提供価値

- スマートフォンの契約者と違う名義のクレジットカード・銀行口座を登録できなくなり、セキュアに本人確認をすることができる
- 厳格性の高いお客さま情報を得られる

お客さまへの提供価値

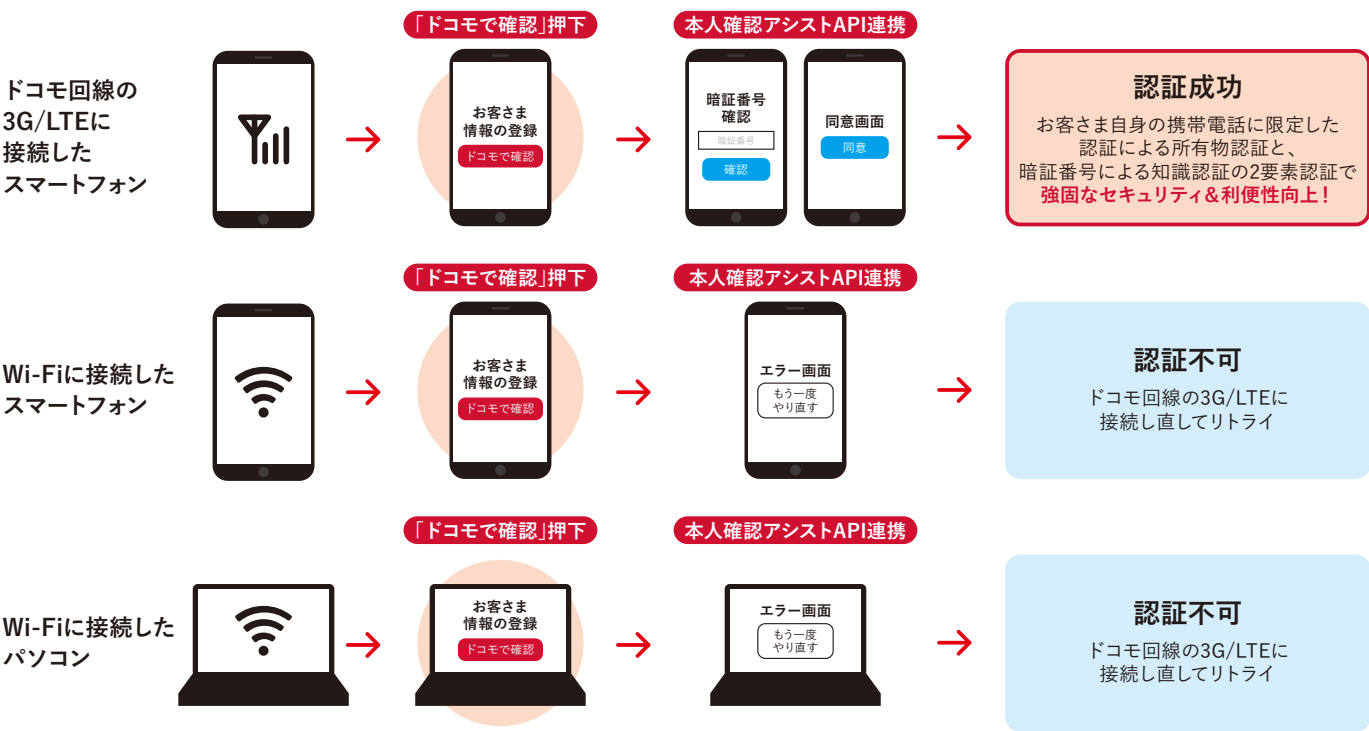
- 入力補助機能としてフィルインタイプを利用することで、煩雑な入力を省略して簡単に初回登録ができる
- アプリの不正利用リスクを回避

利用シーンに合わせた使用が可能

回線認証限定オプション

お客さま自身の携帯電話に限定した認証を実現

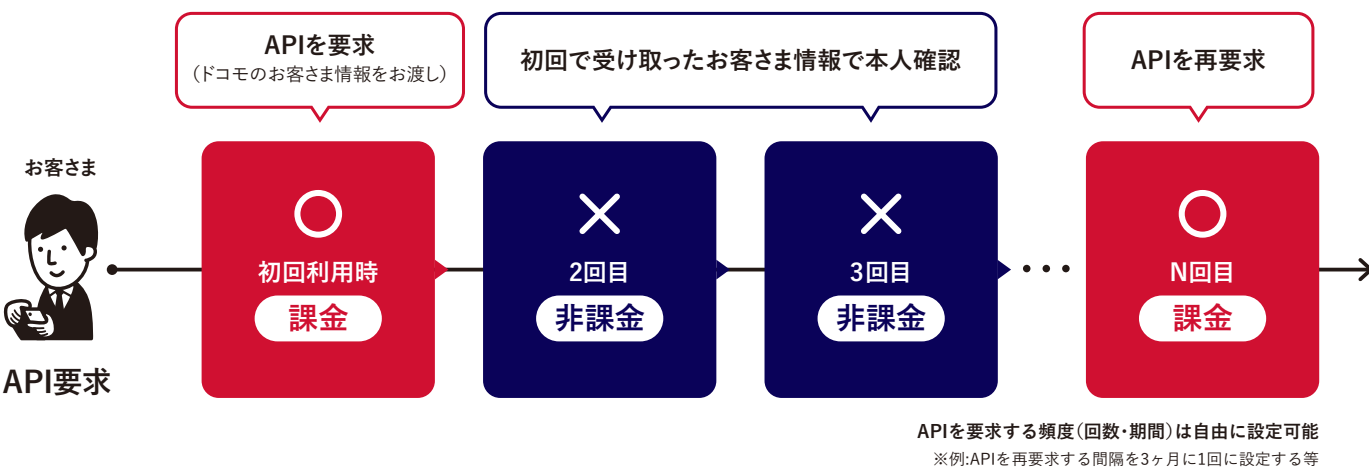
回線認証限定オプションを利用することで、お客さま自身の携帯電話に限定した認証を実現します。暗証番号での「知識認証」に、携帯電話を限定する「所有物認証」の要素が加わることで「2要素認証」となり、強固なセキュリティを保ちつつ、利便性が向上します。



課金のタイミングについて

2回目以降の本人確認は非課金

本人確認アシストAPIでは、お客さま情報をお渡しする際に課金が発生します。2度目以降のアクセスにおいては、導入企業がすでにお客さま情報を持っている（ドコモから受け取っている）ことから、連携・照合のみで本人確認が可能になるため、課金は発生しません。とはいえ、3年、5年、10年……と長い期間が経過すると、改称や住所変更等でお客さま情報が変わる可能性があります。更新する場合は、情報をお渡しすることになるので課金が発生します。なお、お客さま情報を再要求する頻度は、自由に設定することができます。



最高水準のセキュリティレベル

スマートフォン利用を前提とした他認証方法との比較

身元確認

項目	eKYC	免許証等のアップロード	本人限定郵便	免許証(写)の郵送	本人確認アシストAPI
開発コスト	有	有	無	無	有
ライセンスコスト	有	有	不要	不要	有
運用コスト(人手)	有	有	有	有	無
総コスト(仮)	高	高	高	中	中
時間	2~3時間	2~3時間	1週間程度	1週間程度	即時
身元確認レベル	レベル2	レベル2	レベル2	レベル2	レベル3以上(レベル2の場合もあり)
認証機能	無	無	無	無	有
問い合わせ対応	企業	企業	企業	企業	キャリア
利用者メリット	自分しかできない	費用がかからない	待っていれば良い	スマホでなくてもできる	24時間365日対応可
利用者デメリット	持っていないと手続きできない	持っていないと手続きできない	不在の場合戻ってくる	利用者に手間がかかる	ドコモユーザーのみ

当人認証

項目	ID/PASS	乱数表カード	SMSOTP	生体認証	dアカウント・ログイン
開発コスト	有	有	有	有	有
ライセンスコスト	有	有	有	有	無
運用コスト(人手)	無	無	無	無	無
総コスト(仮)	中	高	高	高	低
物理的なツール	無	有	無	無	無
事前登録	有	有	有	有	無
なりすましリスク	高	中	中	低	低
問い合わせ対応	企業	企業	企業	企業	キャリア
当人認証レベル	レベル1	レベル2	レベル2	レベル2	レベル3以上(回線認証限定の場合)
利用者メリット	全キャリア対応	全キャリア対応	全キャリア対応	登録すると楽	24時間365日対応可
利用者デメリット	覚えておかないといけない	持っていないと使えない	通信費がかかる	・事前登録が必要 ・生体認証対応機器が必要	ドコモユーザーのみ

レベルについて

本人確認における当人認証と身元確認は、3段階でレベル分けされており、値が大きいくほど強度が高くなります。

当人認証とは	身元確認とは
● 3要素(所持物・知識・生体認証)の認証方式を活用し、その人が作業していることを示すこと	● 本当に本人が作業しているのかについて確認すること
LEVEL 3 「IDカード+生体認証」のような「耐タンパ性を持つハードウェアを必須とした2要素以上」の認証	LEVEL 3 「対面」で「公的身分証」を基にした身元の確認
LEVEL 2 「ID/PASS+端末または生体認証」のような「2要素以上」の認証	LEVEL 2 「郵便等の非対面」で「公的身分証」を活用した身元の確認
LEVEL 1 「ID/PASS認証」のような「1要素認証」の認証	LEVEL 1 「自己申告」を基にした身元の確認

導入実績のご紹介

導入事例 1

Web上で本人確認が必要な手続を完結し契約者への架電にかかるオペレーターの人件費コストを削減

地方銀行A社

事業内容／普通銀行業務預金・貸出・為替・投資型商品の販売業務、金融商品仲介、相続関連業務、投資銀行業務
導入時期／2019年12月に本人確認アシストAPIを導入

導入前の本人確認の方法

オンラインで銀行の諸手続きができるWebサイトを開設。住所変更や電話番号変更といった諸手続きにおいて、本人になりすました不正アクセスを防ぐため、厳格な本人確認を行うべく、下記の手順を行っていた。

① お客さまに個人情報とその他諸情報を打ち込んでいただく

② 銀行のオペレーターが情報に間違いがないかを確認

③ 連絡先の電話番号に架電

④ 電話口にてお客さまの個人情報を尋ねて本人確認及び手続きの意思を確認

解決したい課題

事務効率を高めたかった

- Webサイトは24時間にわたって登録可能だが、**銀行側の確認は営業時間内に限られていた。**
- 架電による意思確認に時間がかかっていた。銀行側の営業時間内での架電はつながりにくく、数日を要すこともあり契約者と銀行双方にとって利便性が低かった。

オペレーターのコストを抑えたかった

- 申請件数が総定数よりも多く、加えて上記の通り架電の意思確認の利便性が低かったことで、オペレーターの人員コストがかさんでいた。

導入効果

ドコモユーザーへの架電が不要
→ **人件費・通信費削減**
Webサイトで住所変更が完結できることで店頭来店が減少
→ **行員稼働が削減**
住所変更の即時完結
→ **利便性・完了率の向上**
契約者の携帯電話番号を入手できる
→ **確実に連絡がとれる**
ドコモの回線認証限定オプションによりなりすましリスクが非常に低い
→ **セキュリティ向上**
ライセンス料がかからず使った分だけの従量課金
→ **運用コスト低**

月間700件超の諸手続きを、人手を介すことなくリアルタイムで結了！

導入事例 2

会員Webサイトへの新規登録の手間と心理的障壁を取り除きドコモユーザーの登録完了率が大幅増

たばこメーカーB社

事業内容／輸入紙巻たばこ製品のマーケティング・販売促進活動
導入時期／2018年4月に本人確認アシストAPIを導入

導入前の本人確認の方法

① 紙巻たばこの各ブランドの情報提供・キャンペーンの会員Webサイト

② 電子たばこの販売及び保守サービス提供を目的とした会員Webサイト

上記2サイトの新規会員登録時に、主に年齢確認(身元確認)を目的とした本人確認を行っていた。
一般社団法人日本たばこ協会の自主基準により、20歳以上かつ自身が喫煙者であることの確認がとれた会員向けにしか、商品のPRを行うことができないため、たばこメーカーにとって会員数増は非常に重要なミッションとなっている。

解決したい課題

個人情報入力の手間によるコンバージョンの低下

- 会員登録希望者が自身で個人情報を入力する必要があった

運転免許証・健康保険証のアップロードによるコンバージョンの低下

- 会員登録希望者は公的な身分証明書が手元にないと登録ができなかった

オペレーターがいる時間帯でないと会員登録ができない

オペレーターの稼働・負担が大きい

- 公的身分証明書の情報確認をオペレーターの目視にて行っていた

導入効果

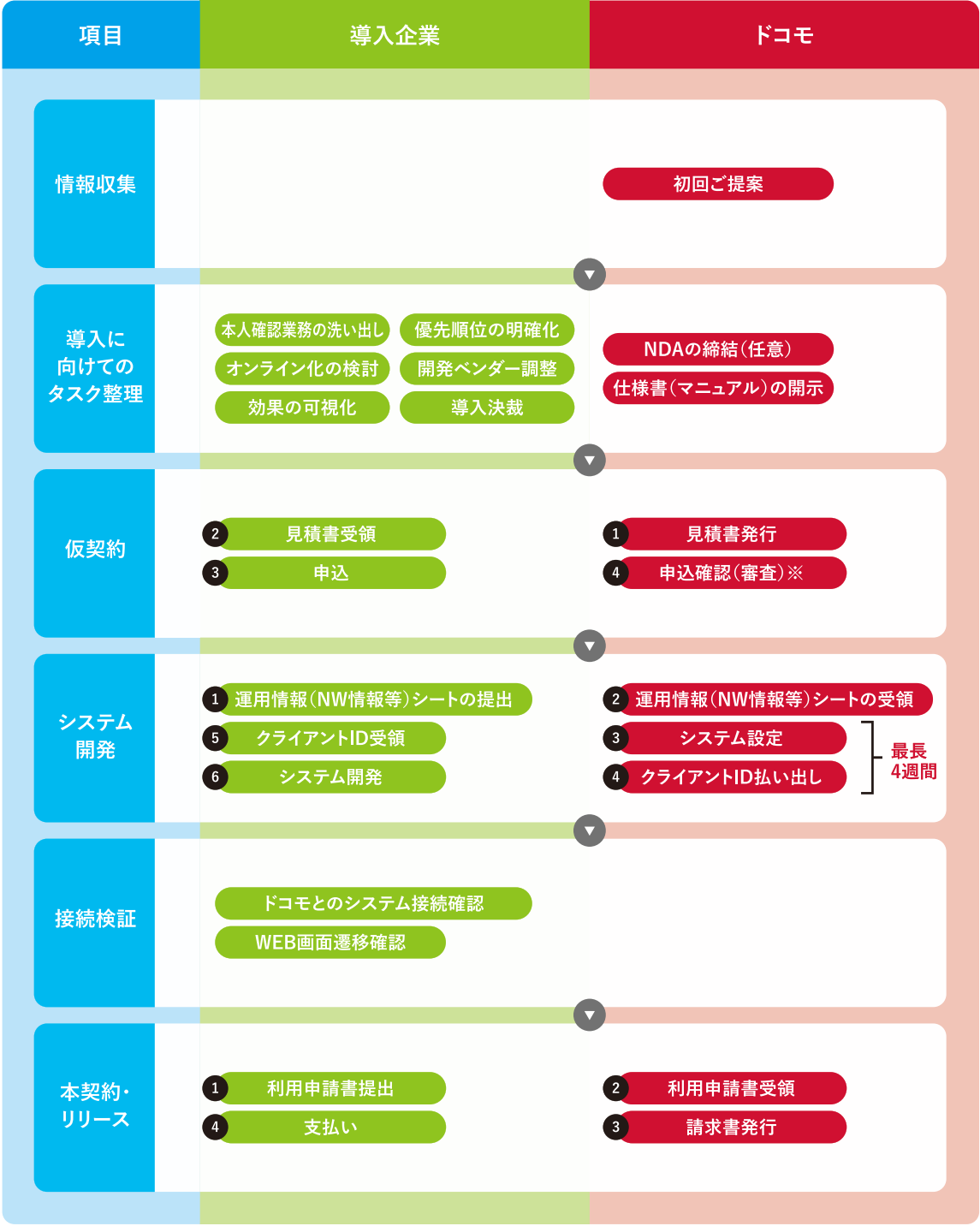
会員登録希望者の個人情報入力の手間が**軽減**された
運転免許証・健康保険証のアップロードの手間と心理的障壁が**なくなった**
24時間365日、システムのみで**リアルタイムに会員登録が結了**できるようになった

会員登録ページへの訪問者のうち、免許証アップロードによる本人確認を利用したお客さまの会員登録完了率に対して、本人確認アシストAPIを利用して会員登録するお客さまの**会員登録完了率が大幅増**。
ドコモユーザーのコンバージョンが向上！

導入スケジュール

本人確認アシストAPIは、仮契約後1〜2ヵ月程度で導入することができます。
スムーズな導入と効果最大化のため、タスクの整理にご協力ください。

サービス導入の流れ



※ご利用に際し、個人情報の取り扱いに関する第三者認証(TRUSTeなど)の取得が必要です